

## トピック「アイヌ文化の情報発信のためにー国立アイヌ民族博物館の役割ー」

情報提供：国立アイヌ民族博物館長 佐々木 史郎 氏

### 1 はじめに

国立アイヌ民族博物館は、令和2年（2020年）7月12日に白老町に開業したウポポイ（民族共生象徴空間）の中核施設の1つとして開館し、これまでに約19万人が来館した。佐々木館長がアイヌ語で自己紹介をした後、講演のねらいが示された。

#### 【講演のねらい】

- ・国立アイヌ民族博物館は、①関東地方よりも北に設置された初めての国立博物館であり、②アイヌ文化という特定の文化を主要テーマにした特異な国立博物館である。
- ・博物館の設立の理念と機能を紹介し、アイヌ文化の発信基地としての博物館の役割を、様々な情報発信方法の中でも重要な「展示」に焦点を当てて説明する。



### 2 ウポポイの構想と博物館の理念

#### （1）ウポポイ（民族共生象徴空間）の基本構想

『民族共生象徴空間基本構想』改訂版

- ・我が国の貴重な文化でありながら存続の危機にあるアイヌ文化を復興・発展させる拠点
- ・先住民族の尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていく象徴
- ・（ウポポイの設立と運営は、）国家的なプロジェクトとして長期的視点に立って取り組むべき政策

#### （2）博物館の理念

『「民族共生の象徴となる空間」における博物館基本構想』

- ・先住民族であるアイヌの尊厳を尊重する。
- ・アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する。
- ・新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する。

### 3 博物館の機能

#### （1）展示

博物館の第1の機能で、国内外の多様な人々に、アイヌ民族の歴史や文化を正しく学び、正しく理解する機会を提供することをねらいとする。そのために、アイヌの歴史・文化等を総合的・一体的に展示する。アイヌの人々の視点で語る基本展示、体験型展示、シアター、特別展示やテーマ展示などで構成される。

#### （2）調査・研究

他の5つの機能を果たすための基礎になる活動で、「アイヌの歴史・文化の研究」「博物館機能強化のための研究」という2軸を設定している。

(3) 教育普及

展示と同様に博物館の理念を実現するための重要な機能で、アイヌの歴史・文化等の理解促進のため学校教育との連携や生涯学習への対応に重点を置き、アイヌ文化の情報を発信する。

(4) 人材育成

収蔵資料を活用した次世代のアイヌ文化の伝承者の育成と、展示や資料整理などを通じた博物館専門家の育成を行う。

(5) 資料の収集・保存・管理

貴重な伝世資料を散逸させず、次世代に受け渡すように積極的に収集する。資料の保存・管理体制を充実させ、収蔵資料は展示のみならず、他館にも貸与するほか、アイヌの人材育成にも活用する。

(6) 博物館ネットワークの構築

博物館どうしのネットワークにより、単独では実現できない特別展示や共同研究、情報共有などの事業を行う。また、全国のアイヌに関わりのある施設等のネットワーク拠点としての機能を果たす。

4 展示を通じた情報発信

(1) 展示の対象とする地域・時代

アイヌ民族が居住してきた北海道、サハリン（樺太）、千島、本州東北地方を中心に、周辺諸地域との関わりの中でアイヌ文化が醸成されてきたことに留意した展示を行い、旧石器時代から現代までを周辺の人々との交流を含めた広がりの中で多面的に取り上げる。

(2) 展示の形態

【基本展示室】

- ・アイヌ文化の基本的な事象を伝える展示
- ・代表的な資料を通してアイヌ文化を一望できる「プラザ」を配置
- ・6つの大テーマ

テーマ	主な展示内容
私たちのことば	口承文芸、アイヌ語の構造、アイヌ語地名、アイヌ語復興への道など
私たちの世界	樺太アイヌが熊の霊送り儀礼で使った杭（20世紀初めの調査写真から復元）
私たちの暮らし	伝統的織機やござ編み機、伝統的な家の構造（AR装置）
私たちの歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考古学遺物から知ることができる時代</li> <li>・文献資料から知ることができる時代</li> <li>・アイヌ自身が残した資料から知ることができる時代</li> <li>・現代のアイヌの人々が記憶、記録している時代</li> </ul> ※アイヌ民族の歴史は記述方法が確立していないことから、日本史で使う時代区分を避け、歴史を知るための媒体ごとに展示スペースを区分
私たちのしごと	アイヌ民族が過去の存在ではなく、同時代を生きる現代の人々であることを示すため、伝統的な生業だけでなく現在就いている多彩な職業も紹介
私たちの交流	かつてのアイヌが行っていた広域の交易活動や、アイヌ民族が紹介された書物や絵画、現在のアイヌ民族が積極的に行っている海外の先住民族との交流など

【特別展示／テーマ展示】

- ・テーマや地域をしばったアイヌ文化の展示
- ・周辺諸民族の文化や世界の先住民族の動向
- ・アイヌ民族博物館の最新の研究成果を公開する展示

5 アイヌ文化の情報発信という観点から見た展示の特色

(1) 「私たちの～」で始まるアイヌの視点で描く基本展示

- ・アイヌ民族が主体的に自分たちの文化を紹介するという姿勢をとり、基本展示の6つの大テーマにはそれぞれ「私たちの～」という修飾語をつけた。
- ・基本展示を企画、立案する委員会とワーキンググループに、博物館の専門家・研究者とともに、アイヌ文化の担い手も加わった。
  - 新しい視点からの展示制作
  - 展示設計へのアイヌからの積極的参加
  - 地域コミュニティとの連携促進
- ・展示を構成する資料が足りない場合には、他館から借用したり、工芸家やアイヌ文化の担い手に展示物の製作を依頼したりした。
  - 地域の博物館との連携促進
  - アイヌの技術伝承者との連携と技術継承の促進

(2) 多言語対応

- ・アイヌ語を第1言語と規定する方針とし、博物館の案内表示と解説文で実現した。音声ガイドにもアイヌ語バージョンを用意した。
  - アイヌ語の復興と振興
  - 解説や案内に必要な語彙や表現に対応する新語創り
  - (例) 従来のアイヌ語にはない言葉：「博物館」＝「イコロマケル（宝がある館）」
- ・海外からの来館者の受入れを見込んで、アイヌ語を含めて7つの言語に対応している。
  - 海外へのアイヌ文化の発信

(3) 可変的な展示形態や展示システム

展示資料の保存とリピーターの確保を目的として、基本展示室でも頻繁な展示更新を行い、特に脆弱な資料については2カ月を目安に展示替えを行っている。

(4) 多様な媒体による展示と展示情報の提供

実物資料・複製資料・復元資料の展示に、文字・図版解説、映像音響情報、研究員による解説、体験型展示（探求展示テンパテンパ）などを加えて、より詳細に、より現実味を持たせて伝える。



## 6 展示によるアイヌ文化情報発信の問題点と難しさ

アイヌ文化の情報発信には、特有の問題点と難しさがある。アイヌ文化については、多くの人が従来学校教育等できちんと教えられてこなかったために、展示を博物館の意図するとおりに理解してくれるとは限らない。来館者が博物館の意図とは異なる反応を見せたケースや展示に対する批判を整理すると、展示による情報発信がいかに難しいかが示される。

### (1) 「アイヌ民族の歴史がきちんと描かれていない」という意見

【批判1】特に近現代史における政府による抑圧の歴史や差別の歴史が描かれていない。

【回答】・明治政府の通達と、それに対するアイヌ側からの嘆願書を展示している。

・差別、遺骨、研究倫理についての展示をしている。

※差別の問題については、アイヌ民族自身が自分たちの歴史をどのように表現したいのかということ尊重する姿勢をもつことが大切で、アイヌ自身と研究者を交えた時間をかけた議論が必要と考える。

### (2) 「本来アイヌ文化には属さないものが展示に多数含まれている」という意見

【批判2】本来アイヌが作れないもの、アイヌ文化に属さないものが展示されている。

【回答】①どの文化も他の民族、他の地域で作られるものを取り入れ、それに独特の解釈を施して自分たちの文化の一部にしている。交易や交流で手に入れ、精神的・社会的に重要な位置づけにあったもので、アイヌ文化の独自性を表している。

(例) 漆器、鉄製品、木綿類

②アイヌの新しい仕事、新しいアイヌ文化の動向を示すものを「私たちのしごと」として展示している。

(例) モッコ、サバサキ、昆布など

【批判3】古く貴重なものが少なく、新しく制作された資料が展示されている。

【回答】現存する資料に限られており、製作技術等が現代に伝わっていないこともあるため、そうした資料をアイヌ民族自身が調査研究し、復元資料を作成している。このように博物館を伝承活動の場として生かすことも博物館の目的であり、現代の工芸家の作品を展示していることなども含め、「モノ」だけではなく「コト」(技術や出来事)も貴重な文化財と考えている。

※展示の資料はすべて、それぞれ意味を持っている。

## 7 展示以外の情報発信

### (1) 教育普及活動を通じた情報発信

ホリデーイベントや博物館講座の開催など

### (2) 研究情報発信

広報誌『アヌアヌ』や収蔵資料データベース、収蔵図書OPACなど

